

地域の農業を守る人たち

農業は私たちの暮らしを支える大切な産業です。
令和8年8月からの新しい農業委員の皆様が決まりました。
今回は新たに就任された方の中のお二人に、農業委員を引き受けた理由や、地域農業の活性化に向けた想いについてお話を伺いました。
(任期：3年間)



西田 美福さん(才田農園)

27歳から農業を始める。
今回初の女性農業委員。



きっかけは子どもへの想い

Q：農業委員を引き受けた理由は。

A：子どもたちに新鮮な野菜を食べて欲しい想いがあり、家庭菜園から始めた農業です。お客様や販売してくださる方々から商品を求められたり、周りの人に頼りにされたら役に立っていると実感します。
農業委員は、お世話になっている地域に少しでも貢献できるならと、微力ではありますが受けさせていただきました。

Q：地域農業の活性化に向けて取り組みたいことは。

A：地域農業の活性化という大きなことはできないかもしれませんが、でも、淡路市だけでなく全国的に担い手不足が課題です。特に淡路市は中山間地域がほとんどであることや、イノシシ問題などによる耕作放棄地の利用が課題であると思います。そんな中で、今後も継続していける農業をしていきたいと考えています。
しっかり野菜を栽培し、次も買いたいと思ってもらえるよう精進します。



山田 修平さん(合同会社淡路島山田屋)

大阪生まれ。
北海道で農業を学び、淡路島に移住。



覚悟とブレない想い

Q：農業委員を引き受けた理由は。

A：頼まれたのが理由ですが、自分が役に立つことがあるのならば、やらせていただこうと思いました。地域の農地をどうやって守っていくかを考えていきたいと思っています。

Q：地域農業の活性化に向けて取り組みたいことは。

A：知り合いがいない淡路市への移住に際して、地域の方が住居や地元農家を紹介してくれ、使われなくなっていたカーネーションの温室でいちごの観光農園を始めることができました。
段々畑での草刈りは重労働で、年々耕作放棄地が増えていくなか、「最低限荒らさない」という想いで、移住者や地元農家で営農組合を作り、赤牛の放牧を始めることにしました。
「ストレスなく育った牛肉を提供したい」というシェフの協力や4頭の牛の活躍で、荒れた耕作放棄地も少しずつ減少してきました。
農業を継続するには「覚悟」と「ブレない想い」が必要です。古き良き農業も取り入れ、楽しさを共有しながら取り組んでいきます。



定例会の流れ

第121回定例会が6月1日から17日まで開催されました。
「市議会って何をやってるの？」そんな声におこたえべく、定例会の流れをお伝えします。

1



上 程

市長から議案が提出され、提案説明や報告があります。



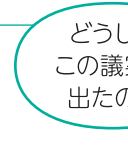
こんなことを決めたいです。

2



質 疑

疑問や不明確な内容を明らかにするため説明を求めます。



どうしてこの議案が出たの？

3



委員会審査

慎重に審議するために、各議案を委員会に付託します。

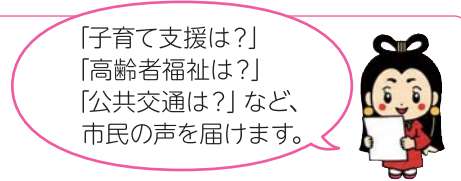


4



一般質問

市政運営全般にわたって質問し、時には提案も行いながら答弁を求めます。



「子育て支援は？」
「高齢者福祉は？」
「公共交通は？」など、市民の声を届けます。

5



討 論

議案を採決する前に、賛成・反対の立場を明確にし、賛同者を求めます。



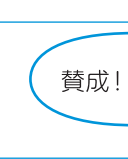
私は賛成です！その理由は。

6



表 決

それぞれの議案に対し、賛成・反対を明らかにします。



賛成！ 反対！

議会を傍聴してみませんか！

直接議場で傍聴できます

市役所の議場で、議員や職員の息遣いや表情など、生の反応を体感できます。
皆様の声が議会の原動力！
傍聴後のアンケートでいただいたご意見や感想は、議会で検討しています。
ぜひ、ご提出ください。



議会映像をインターネット配信しています

本会議や委員会の様子をインターネットで配信しています。自宅などからスマートフォンやパソコンでもご覧いただけます。ぜひ、ご視聴ください。
お近くの各事務所でも視聴することができます。



会議録は市のホームページで公開しています

キーワード検索もでき、これまでの議論や答弁内容を簡単に知ることができます。
津名・東浦図書館でも閲覧できます。

